

学校保健

平成20年11月

No. 274

(財)日本学校保健会ホームページアドレス
http://www.hokenkai.or.jp/



JAPANESE SOCIETY
OF
SCHOOL HEALTH

(財)日本学校保健会

朝食欠食
孤食

学年・校種が上がるほど増加傾向

財団法人日本学校保健会のサーベイランス事業は、児童生徒の健康・生活の実態を把握し、保健指導と健康管理に直接役立てられるよう調査を実施しているものです。平成4年度から「生活習慣病のリスクファクター」「ライフスタイル」「アレルギー様症状」の3領域において調査を行って報告書にまとめています。平成18年度調査は、これまで調査対象としてきた小学校3・4年生から高校生に加えて、小学校1・2年生も調査対象としているのが1つの特徴です。今号ではその中で、児童生徒の朝食の摂取状況、「孤食」に関する調査結果を紹介します。

主な紙面

特集 子どもの健康と体力Ⅲ
稲沢市立大里東中学校の実践事例 2～3
シリーズ⑮「健康教育をささえる」
化学物質のリスク……4～5

もし、新型インフルエンザが
東京都内で発生したら……6～7
個人で出来る感染症対策の基本……別刷
学校欠席者情報収集システム……別刷

ライフスタイルに関する調査結果で、朝食の摂取状況について「毎日食べる」「食べる日の方が多い」を「ほぼ食べる」グループとすると、小学校の男女、中学校の女子は95%以上が「ほぼ食べる」で、全体では男子が94.8%、女子95.3%でした。朝食を「食べない日のほうが多い」「ほとんど食べない」と答えた者は、男子で中学生7.3%、高校生8.8%、女子で中学生5.0%、高校生6.9%でした。その朝食を「食べない日のほうが多い」「ほとんど食べない」と答えた者の理由について問うと、「朝起きるのが遅いので、食べる時間がない」が全体の男子で43.8%、女子で39.5%と最も高く、続いて「食欲がない」男子34.6%、女子40.3%、次に「普段から朝は食事をしない」男子14.2%、女子10.3%でした。

朝食を1人で食べている状況について、グラフ化したものは図1の通り、夕食を1人で食べている状況をグラフ化したものは図2の通りです。食育では、1人または子どもだけで食事することを「孤食」と呼んでいます。夕食を1人で食べている子どもを前回の平成16年度調査と比較すると、小学校5・6年生男子、中学校男子でそれぞれ1.2%、0.6%と下がった以外は小学校3・4年生男子の0.2%から高校生女子の5.3%まで前回は上回る結果でした。(平成18年度児童生徒の健康状態サーベイランス事業報告書より)

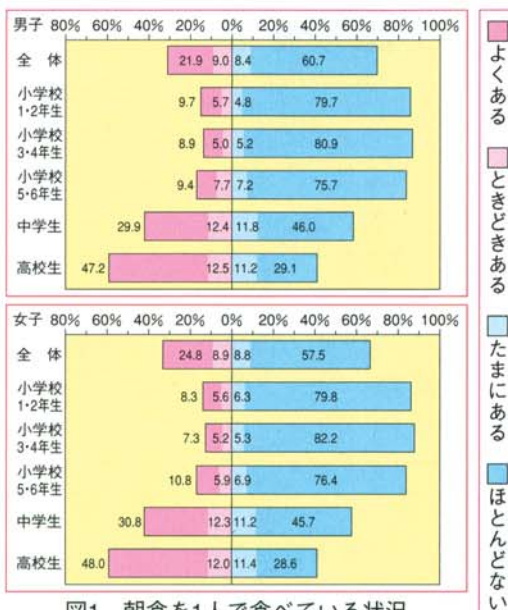


図1 朝食を1人で食べている状況



図2 夕食を1人で食べている状況

乞御回覧

校 長	教 頭	保健主事	養護教諭	学校栄養職員	PTA	会 長	副会長

本誌は、各都道府県学校保健会、区市町村教育委員会、教育事務所のご協力を得て各学校まで配布しています。年末年始を除き、毎月発行月前の末日には送付しています(一部遠方地域を除く)。届かない時はお問い合わせ下さい。

平成20年度

特集 子どもの健康と体力Ⅲ

～学校での実践事例～

「生きる力」を身に付け、未来を切り拓くことのできる生徒の育成

—生きる力を支える健やかな体づくりを通して—

愛知県稲沢市立大里東中学校 教諭 田中 千春

本校は、「『生きる力』を身に付け、未来を切り拓くことのできる生徒の育成」を研究主題とし、学校体育の研究に取り組んできた。その結果、平成19年度、愛知県学校体育研究連合会より、学校体育優良校として表彰を受け、現在も健康教育に取り組んでいる。

I 生徒の実態

平成18年度に実施した体力テストにおいては、体格が県平均とほぼ同じであるにも関わらず、各学年男女ともに、持久走と立ち幅跳びの記録の低さが目立った。また、自分の体をコントロールして、けがを予防するという能力や知識も不足していた。

そこで、自分の力に合わせて目標を設定し、運動を継続することで、健康の保持増進を図り、生涯を通して心身ともに健康で安全な活力ある生活を送るための基礎を培い、健やかな体づくりを通して、生きる力をはぐくみ、未来を切り拓くことのできる生徒を育成したいと考えた。

保健体育科を中心にあらゆる教科や特別活動などを通して、広い視野で運動を理解し、体づくりに積極的に取り組むことができる生徒の育成を目指している。

II 体づくりの実践**1 基礎体力の育成に向けた取組****(1) 保健体育の授業時間の充実****① カリキュラム改編（授業時間数増）**

生徒の体力向上と健康の保持増進を図るには、保健体育の時間の充実が欠かせない。

そこで保健体育の授業時間数を年間90時間から105時間に増やし、特に体育実技の時間増を図ったカリキュラムを編成した。それにより、運動量を確保するとともに、基礎的な体力づくりトレーニングを年間を通して継続的に取り組んでいる。

② 基礎的な体力づくりトレーニング

—— 800mを走りきれ! ——

体力面での本校生徒の弱点を強化するボイ

ントは全身持久力と瞬発力であると分析し、800m走による基礎的な体力づくりトレーニングを継続的に実践する計画を立てた。

「800mを走りきれ」を合い言葉に、生徒には速く走ることにこだわるのではなく、自分に合った目標を設定し、自分のペースで最後まで走りぬく忍耐強さを身に付けることを最大の目標とさせている。

週1回授業の始めに800m走の記録をとることにより、それを励みとしている。そして、一人一人が自分の能力を客観的に判断してペース配分や呼吸法、走り方などを工夫し、自己目標達成と記録の向上を目指して取り組むよう指導している。



800mを走りきれ!

(2) 特別活動での取組**① 筋肉番付**

生徒会運動委員会で「筋肉番付」と名付けた運動能力を競うイベントを企画、実践している。

全校集会の時間に各クラスの代表が全校生徒の前で片足バランス、20mシャトルランなど様々な種目で競い合っている。年間で9種



筋肉番付：馬跳び

目の運動を楽しみながら記録を競い合う活動の場となっており、毎回大きな声援と歓声が体育館にこだまし、学校、学級の活性化の一助となっている。

② 部活動での取組

生徒の運動能力、体力の向上には部活動が重要な役割を占めている。しかし、本校では、勝利至上主義で過度な練習や日程にならないよう、週1回の休み（原則として日曜日）を設定している。平成19年度の春季休業中には、自主性を発揮して部活動に取り組む意識を高めさせることを目的として、各部のリーダーを対象にした1泊2日のリーダー研修会を実施した。

2 心身の健康づくりに向けた取組

(1) 健康・安全に対する取組

毎年1学期の学校保健委員会では、全校生徒と保護者を対象にした熱中症予防に関する講演会を実施している。本年度は「熱中症予防とベストを尽くせる水分補給」という演題で、専門家の話を聞いた。

また、各運動部は、救急箱と熱中症対策グッズの入ったアイスボックスを常備し、日常の部活動と練習試合や大会に出掛ける時に活用している。

(2) 教育相談活動

毎学期1回ずつ相談活動週間をもうけ、担任が生徒の悩みを聴き、心のケアに努めている。生徒にはあらかじめアンケート調査を行って、学習状況、友人関係、部活動などに関する悩みや相談事項を掌握し、一人一人の生徒とできる

限り時間を取って対応し、心の健康づくりを心掛けている。

3 開かれた学校づくり

(1) おやじの会との交流

“熱き戦いを！”を合い言葉に、おやじの会主催によるスポーツ交流会を行っている。これまでにサッカー部、ソフトテニス部、野球部の生徒と、保護者や地域の方々との交流試合を行った。常に真剣勝負で競い合い、時には大人の力が圧倒し、時には中学生の巧みさが翻弄するという試合展開になり、中学生の今の姿を知ってもらうよい機会となっている。



生徒の巧みなドリブル

Ⅲ 研究実践の成果と今後の課題

当然のことながら、800m走の記録はどの学年も向上しており、特に1年生の伸びが大きく、多くの生徒が800m走へ意欲的に取り組んでいる。それに伴い、運動に励む生徒が多くなり、陸上競技大会や駅伝大会などへ積極的に参加するようになった。そうしたことが各種競技会の好成績にも繋がっている。

今では、けがの防止や水分補給に留意し、自らの体力向上と健康管理を意識しながら運動に取り組む姿が見受けられるようになった。また、地域行事やボランティア活動などへ進んで参加し交流の輪を広げ、地域社会の一員としての自覚も高まりつつある。

今後も、自ら健やかな体づくりに取り組み、生きる力を身に付けた心身ともにたくましい生徒の育成を目指していきたい。

シリーズ 15

「健康教育をささえる」 ～保護者から～

甘く見てはいけない！化学物質のリスク

～化学物質の受動吸引(暴露)が子どもたちの健康を奪う～

林 由季子（環境過敏の子どもを持つ親の会 代表）

1. 活動のきっかけ

平成10年、当時小1の長女は、学校で行われた校庭樹木の農薬散布で2度にわたり農薬に暴露し健康被害を受けた。以後、化学物質過敏という後遺症の苦しみは私たち親子の生活を180度変え、一向に改善されない子どもの症状、有害化学物質を避けるための経済的・心理的負担、非常に苦しい日々が続いた。

「このような苦しみをもう誰にも経験して欲しくない」という思いが出発点となり、子どもの健康と化学物質に関する諸問題の解決に向け、今日の活動に至っている。

2. これまでの活動

「シックハウス症候群」（以下SHSと略）や「化学物質過敏症」（以下CSと略）の原因物質は農薬だけではなく、建材、塗料、医薬品、家庭用品、香粧品、文具等の含有物質、さらに合成・天然の区別なく全ての化学物質が対象である。

当会は原則として専門医によるCSの診断を受けた子どもとその保護者、又は行政関係者等に対する相談対応やホームページ等を通じた情報発信他を行っている。

現在までに携わった主な活動には「埼玉県における県有施設・樹木の消毒等に関する取組方針（平成13年）」及び「埼玉県立学校のシックスクール問題に関する取組方針（平成15年）」の策定、また国交省に対して行った「鉄道車両内における衛生的環境の確保に関する問題の提言（平成17年）」などがある。

3. CS対応は正しい理解から

SHSやCSは、いつどこで誰が何によって発症するかわからない。SHSやCSに関する詳細は文献検索をお願いするとして、ここではCSを理解して頂くため、まずは概念を図1に示す。

CSの対応をする場合、①特定の微量化学物質に体

が影響を受けて様々な症状を引き起こす（＝反応）状態、②アレルギーや中毒・SHSとは異なる、③反応物質は多岐にわたるが、特に揮発性や構造骨格の類似した化学物質には注意が必要、④pptレベルでも反応する場合がある、以上の4点がポイントとなる。

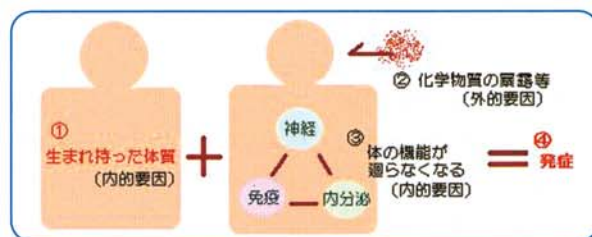


図1 化学物質過敏症の概念

患者は室内空気汚染のある部屋に居留されないだけでなく、食事、宿泊、衣類の素材、市販薬の服用や治療等、普通の生活が困難になり、周囲の理解が得られないと、親子ともに社会から孤立してしまう。また、子どもの成長とともに、症状の変化や辛さだけでなく、希望と現実のギャップや将来への不安、思春期特有の心理的不安などの問題が複雑に絡んでくる。

症状緩和のための医療や化学物質対策だけでなく、幼児期～青年期の発達段階に応じた心身両面のトータルケアが欠かせない。

4. 化学物質のリスクを減らす

私たちの日常生活は化学物質の恩恵で成り立つが、化学物質には様々なリスクとベネフィットが諸刃の剣のように存在している。タバコの受動喫煙対策が進む一方、未発達な子どもの横で何の注意もなく殺虫剤スプレーやマニキュア



GHSにおける絵表示の一例

を使う人が多い。そんな矛盾した社会認識の中で、健常者とCS患者が共存・協力できる方法はあるのか？

最近では、化学物質に関する法的整備や企業のCSR活動*の充実により、取扱説明書の他、MSDS*やGHS*等で、製品に含まれる化学物質の名称や、どのような注意が必要か等を知ることが可能になっている。

一例として、学校工事等で新たな化学物質を使う場合、事前に製品情報を取り寄せ、保護者等と共に適切な対応を協議する「リスクコミュニケーション」をお勧めする。

また、本年「学校保健法」が改正され、来春から「学校環境衛生の基準」が法的根拠を持つ基準となる。さらに中学校の保健体育授業には「薬の正しい使い方」という教育が新たに加わる。せっかくの機会なので、例えば、化学物質のベネフィットである薬でも、鎮痛消炎スプレーのように可燃性ガスが封入されている製剤の場合、誤使用や過剰使用をすれば自身に対するリスクだけでなく室内空気汚染や他者に対する「非意図的摂取」をもたらす…そんな身近な話題をテーマに、大人と子どもが一緒になって化学物質の正しい使い方について学び、化学物質のリスクを減らしていくことが、CS患者と健常者が共存していくための第一歩である。



薬教育の教材例（財団法人日本学校保健会発行）

5. 化学物質問題は恒久的テーマ

「CSの子どもが居られる環境は、他の子どもにとっても良い環境」…CS児童が在籍する学校の、PTA保護者（健常者側）から頂いた。子どもの健全育成に相応しい環境とはどうあるべきかを的確に現した言葉である。

SHSやCSが社会的話題になり、関連法の整備が進められた結果、10年前に比べれば社会的な理解は相当進んだ。国際的にもICCM*でSAICM*が採択され、化学物質に脆弱な妊婦や子どもに対する具体的なリスク削減計画が策定された。しかし現実にはまだまだ十分とはいえない。

化学物質に子どもたちの笑顔を奪われないように、CSの子どもを持った親の代弁者として、これからも微力をつくしていきたいと思う。

以下は文章中に出てきた略語とその意味です

用語解説

*CSR活動

Corporate Social Responsibilityの略語。
「企業の社会的責任」。企業は環境対策や社会活動等、ステークホルダーに対する責任を果たす。

*MSDS

Material Safety Data Sheetの略語。
「化学物質等安全データシート」。事業者が特定の化学物質を含んだ製品を他の事業者に出荷する際に添付しなければならない安全情報を記載したシートのこと。添付すべき化学物質は関係法令で定められている。

*GHS

Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicalsの略語。
「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」。世界的に統一されたルールに従って、化学品を危険有害性の種類と程度により分類し、その情報が一目でわかる

よう、ラベルで表示したり、安全データシートを提供したりするシステム。

*ICCM

International Conference on Chemicals Managementの略語。
「国際化学物質管理会議」。2006年2月、ドバイで開催された同会議においてSAICMが採択された。

*SAICM

Strategic Approach to International Chemicals Management の略語。
「国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ」。2020年までに化学物質が健康や環境への影響を最小とする方法で生産・使用されるようにすることを目標とし、科学的なリスク評価に基づくリスク削減、予防的アプローチ、有害化学物質に関する情報の収集と提供、各国における化学物質管理体制の整備、途上国に対する技術協力力の推進などを進めることを定めたもの。

もし、**新型インフルエンザ**が **東京都内で発生したら**

国立感染症研究所
感染症情報センターの
シミュレーションより

新型インフルエンザ感染拡大シミュレーション（首都圏版）

現在、大変懸念されている感染症に新型インフルエンザがあります。これは鳥インフルエンザウイルスでも強毒性のH5N1型の遺伝子がヒト型に変異してヒトからヒトへ感染するウイルスとなったものですが、その予防に確実なワクチンを生成するには発生から最低でも6ヶ月を必要とし、もし、発生した場合、飛行機や鉄道など交通輸送の

発達がめまぐるしい現代では短期間での大流行は避けられないといわれています。

国立感染症研究所感染症情報センターでは先ごろ、そのシミュレーションを公表しました¹⁾。その中の一例を紹介します。

【何も対策をしなかった場合の首都圏エリア】

シナリオ

東京都八王子市在住の初発例

（フェーズ6での輸入例）

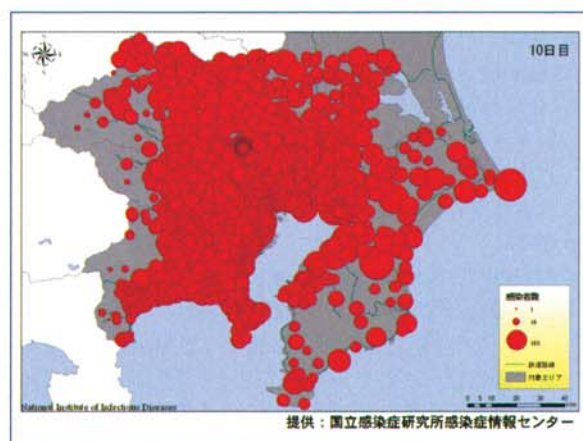
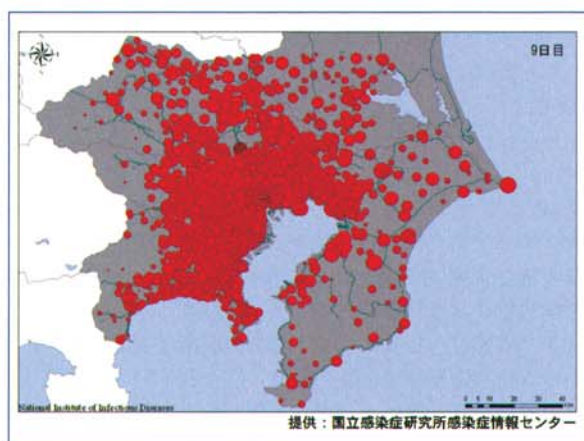
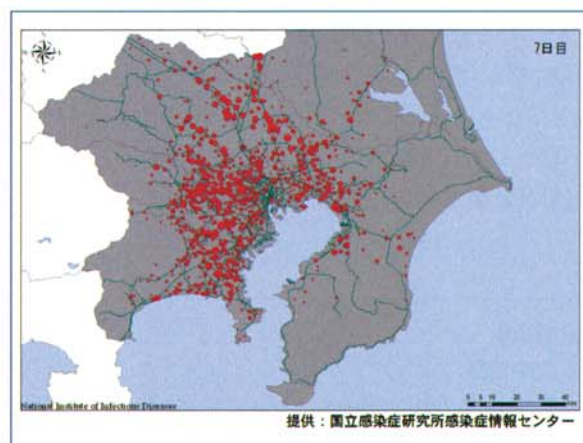
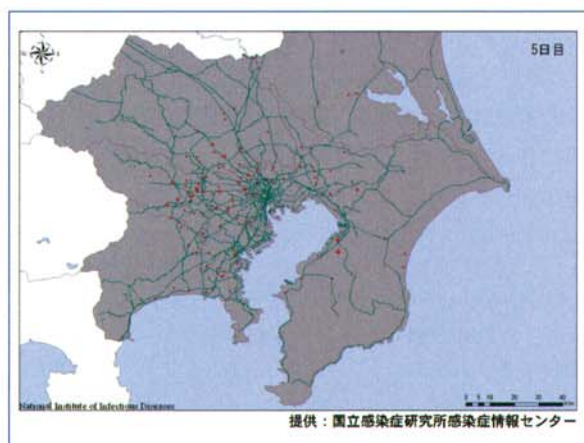
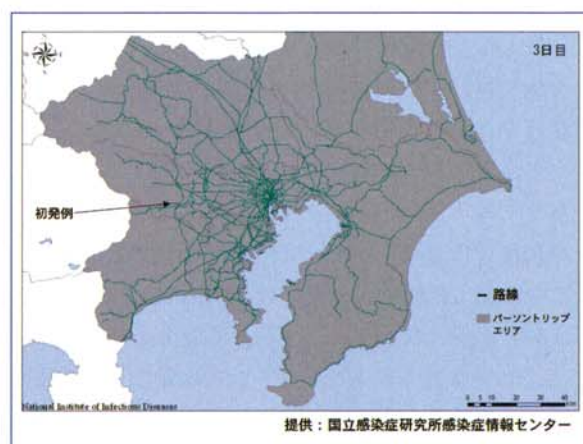
第1日：初発例が外国で感染

第3日：帰国、感染性発現

第4日：出社、発症

第5日：出社

第10日：12万8千人発症



学校の対応は

新型インフルエンザも飛沫感染という点では毎年冬のインフルエンザと同じですが、全身感染の症状を引き起こす可能性が高い点で、インフルエンザとは異なる重症疾患であるという認識が必要です。

その新型インフルエンザの対策として、学校は重要な位置を占めています。対策としては、学校閉鎖、外出自粛、発症者家族の自宅隔離等が考えられており、これらを早期に行うことで、流行抑制できる可能性があります。また、学校および学校保健活動は、子どもを通じて継続的に保護者に正確な情報の提供ができる地域拠点として大変期

待されているところです。

いま、日本学校保健会と国立感染症研究所感染症情報センターですすめている学校欠席者情報収集システムは、従来のインフルエンザや麻疹などの感染症への対応だけでなく、新型インフルエンザ対策としても効果を期待されています。地域医療と学校保健が一体となって、子どもたちの健康を見守るシステムとして、これから全国展開を図っていきますが、学校に頼るところは大きく、教育委員会ほか学校関係者の理解と協力が望まれています。

参考文献：1) Ohkusa, Y, Sugawara T: Application of an individual-based model with real data of transportation mode and location to pandemic influenza, Journal of Infection and Chemotherapy, 13: 380-389, 2007

フェーズ	定 義
フェーズ 1	ヒトにおいては新たな亜型のインフルエンザウイルスは同定されていない。動物においては、ヒトに感染する恐れのあるインフルエンザウイルスが存在しているが、もしも動物に見られたとしても、ヒトへの感染リスクは小さいと考えられる。
フェーズ 2	ヒトにおいては新たな亜型のインフルエンザウイルスは同定されていない。しかしながら、動物において循環している亜型インフルエンザウイルスが、ヒトへの発症にかなりのリスクを提起する。
フェーズ 3	新しいヒト感染(複数も可)が見られるが、ヒト-ヒト感染による拡大は見られない。あるいは非常にまれな密接な接触者(例えば家族内)への感染が見られるに留まる。
フェーズ 4	限定されたヒト-ヒト感染の小さな集団(クラスター)が見られるが、拡散は非常に限定されており、ウイルスがヒトに対して十分に適合していない事が示唆されている。
フェーズ 5	より大きな(一つあるいは複数の)集団(クラスター)が見られるが、ヒト-ヒト感染は依然限定的で、ウイルスはヒトへの適合を高めているが、まだ完全に感染伝播力を獲得していない(著しいパンデミックリスクを有していない)と考えられる。
フェーズ 6	パンデミック期：一般のヒト社会の中で感染が増加し、持続している。 小 康 状 態：パンデミック期が終わり、次の大流行(第2波)までの期間。 第 2 波：次の大流行の時期。

(厚生労働省：新型インフルエンザ対策行動計画, H17)

H5N1インフルエンザ WHO フェーズの概要

受験期の生理をのりきる！ワンポイントアドバイス

無料
プレゼント

【内容】 受験期の生理に関するQ&Aコーナー、先輩の成功体験談等
【対象】 主に中学受験・高校受験を控えた母親
【監修】 堀口雅子(虎の門病院産婦人科嘱託医)

【お申し込み方法】 ご希望の方は学校名・ご担当者名・郵便番号・住所・電話番号・必要部数を明記の上、FAX、ハガキまたはインターネットからお申込下さい。 <http://happywhisper.com/juken/reg.html>
リーフレットとナプキンサンプルを無料でプレゼントいたします。

(FAX、ハガキ〆切り：2009年2月28日、インターネット〆切り：2009年2月15日)

【お申し込み・お問合せ先】 ウィスパー受験.com 事務局 担当：中村、中谷

〒104-0045 東京都中央区築地 2-7-12 15 山京ビル 6 階 TEL:03-3549-1684 FAX03-3549-1685



市民公開講座

「よくわかるアトピー性皮膚炎」 アレルギー疾患のある 子どもたちのために

(財)日本学校保健会は、アトピー性皮膚炎の正しい治療法やスキンケアの方法、また、学校におけるアレルギー疾患対策を主とした市民公開講座「よくわかるアトピー性皮膚炎～治療の主役はあなたです～」を10月13日(月・祝)、仙台市で開催しました。



正しい治療法と学校での対策

この市民公開講座では、第1部の講演で国立成育医療センター第一専門診療部アレルギー科医長の大矢幸弘先生が「アトピー性皮膚炎の標準的治療」と題して、アトピー性皮膚炎は治る病気であること、それには中途半端な治療では治せないこと、ステロイドの副作用を恐れて使用しなかったために成長障害や子どもでも白内障などの合併症になる可能性、アトピー性皮膚炎

生を座長にシンポジウムを行いました。

シンポジウムでは、宮城県立石巻高等学校養護教諭の千葉久美子先生が自身のアナフィラキシー体験、アレルギー疾患のある子どもの母親としての立場から、また、小学校、高等学校での養護教諭としての経験と宮城県の学校での取組事例などの話がありました。また、本会の内藤昭三専務理事より、「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」「学校生活管理指導表(アレルギー疾患用)」の活用に関して、本会ではわかりやすいQ&A集の作成などをすすめていくと今後の展開にも触れました。

座長の西間先生は最後に、「アレルギー疾患の治療はここ10年で進歩しましたが、学校での対策は進んでいないところも多く、子どもたちのQOL向上への対応は不十分です。今後に向けて、そのスタートは今という認識で学校でのアレルギー疾患のある子どもの対応をしてもらいたい」とし、その中心として養護教諭への期待が述べられました。

この市民公開講座はほかに神戸、名古屋、横浜で開催を予定しています。この講座では、疾患のある子どもを持つ保護者の方や運動後などのシャワー設備のある学校での対応の参考にと、正しい治療法として、第1部江藤先生の講演の途中でFTUの動画の一部が流されましたが、その時の動画は本会の学校保健ポータルサイトで全編が視聴できるよう現在公開をすすめているところです。



第2部では、「学校におけるアレルギー疾患対策」をテーマとして国立病院機構福岡病院院長の西間三馨先

市民公開講座

主催：財団法人日本学校保健会

「よくわかるアトピー性皮膚炎」

開催日時・場所(各会場13:30開場、14:00～16:00)

◆平成20年11月23日(日) チサンホテル神戸

◆平成20年12月21日(日) 名古屋国際会議場

◆平成21年1月18日(日) ワークピア横浜

入場無料

第1部 講演

- ・講演1 アトピー性皮膚炎とは
エビデンスに基づく標準治療と、不適切な治療との違いについて
大矢幸弘先生(国立成育医療センターアレルギー科医長)
- ・講演2 治療の重要性、治療の種類、合併症の種類や注意点
江藤隆史先生(東京通信病院皮膚科部長)

第2部 シンポジウム

- ・テーマ 「学校におけるアレルギー疾患対策」
学校生活管理指導表(アレルギー疾患用)の活用方法

お申し込み
お問合せ

①ご参加希望会場 ②ご参加者名 ③ご住所 ④電話番号
⑤ご質問事項を明記の上、ハガキまたはFAXで事務局まで。
ホームページ(<http://www.atopy-symposium.com>)、
学校保健ポータルサイトからお申込みいただけます。

事務局 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-1-15 藤野ビル2F
エムシークリエイト株式会社 内「市民公開講座 よくわかるアトピー性皮膚炎」事務局
電話 03-3660-5731 FAX 03-3660-5730
※応募頂いた方の個人情報は参加証送付のためにのみ使用致します。

牛乳パックを利用したリサイクル教育における食物アレルギー児のリスク

国立病院機構福岡病院小児科 柴田瑠美子

学校でのアレルギー疾患対応について考える

最近、給食後に牛乳パックを児童が洗浄してリサイクルする指導が教育現場で行われている。牛乳パックを折りたたむときの牛乳の飛散だけでも、牛乳アナフィラキシー児にとっては注意を要する状況であったが、多くの牛乳パックを児童が洗浄、回収する作業があり、乳アナフィラキシーの1年生児童の母親から毎日が不安で、昼食時に毎日子どもを避難させ、牛乳処理の後の掃除をしていると訴えがあった。他の外来の食物アレルギー児も母親が校長、教育委員会にかけあい、クラスまたは1学年でのリサイクル処理は中止の対応がようやくとられている。

本邦の食物アレルギーは、学童期の2%程度にみられており、乳幼児期より頻度は少ないが学童期までに自然治癒できていない例では、アナフィラキシーなど重症例が多い。学童期に給食で利用する食品の中でも、牛乳は生であり食品の抗原性からは最も強く、高温で加熱した乳菓子類などからするとアレルギー性は800倍以上抗原性が高い。

牛乳アナフィラキシーでは、実際に牛乳・生乳製品が皮膚にかかり、接触により顔や目の腫脹や喘息発作を誘発することがあり、接触も避ける指導を行っている。(コップがからこぼれた牛乳が顔身体について、全身皮膚の発赤じんましん、目の充血で救急外来受診した例。服の上から胸に牛乳がかかり、皮膚発赤と喘鳴、喘息発作になった例。牛乳が飛んで眼がはれあがる事例など接触による誘発は少なくない)。

毎日の子どもによる牛乳パック処理では、周囲にこぼすため母親が拭いている先の例もあるが、牛乳は調理器具や食品製造ラインでも付着したあとかなり洗剤で洗浄しないと除けないことが知られている。このため校内の患児周辺に牛乳が付着し続けることが想像され、アレルギー感作の増大も懸念される。このような牛乳パック洗浄リサイ

クルは牛乳アレルギー児にとって、非常に多くの問題があり、アナフィラキシーの危険性が高まることを警告したい。

欧米ではピーナッツアナフィラキシーによるショック死が多いことから、学校給食のピーナッツバターがでた食事後の机などのアレルギー残存まで検討した報告がある。食品形態によっては接触による反復性のアレルギー刺激がアレルギーを増強し食物アレルギーを発症する可能性がある。牛乳やピーナッツ、卵、小麦そのものでは、直接さわったり、粉を吸い込んで症状が誘発された例もあり、アナフィラキシーではアレルギー性の強い食品には日常生活における接触や飛散にも細心の注意を必要としている現状がある。

以上の医学的な問題点を踏まえ

- 1) 牛乳パックの洗浄リサイクルは、毎日長時間を過す学校環境中の牛乳アレルギー増加を来し、牛乳アレルギー児の感作の増大と過敏性を高める可能性がある。
- 2) 日常的な牛乳の処理で、アレルギー児が100人に1人であってもアナフィラキシー事故が起こる危険性、リスクは高くなる。
- 3) 学校、クラス全体で行う作業とすると、はじめから参加でないアレルギー児に対する偏見、疎外感を生じることになる。
- 4) クラス単位などで中止した場合は、アレルギー児のためにみんなと同じリサイクル活動ができないということからアレルギー児にとっても肩身の狭い状況に置かれる。
- 5) アナフィラキシー児は重症の誘発症状を経験し、家族はそれを目の当たりにしており、アナフィラキシーに対する恐怖心は強く、牛乳パックのリサイクルの行われる毎日が患児家族の恐怖となっている。
- 6) 小学校入学を予定している乳アナフィラキシーの幼児を持つ家族から、不安であると相談が増えている。

以上のことを配慮し、アレルギー児も安心して参加できる別の形のリサイクル教育を行っていただくように願っている。

報告 全国大会・ブロック大会 (平成20年8月11日～9月30日開催分まで)**第51回 全国学校保健主事研究協議会 ～和歌山大会～**
全国学校保健主事会

学校保健活動に携わる多くの方々からのご支援、ご協力をいただき、第51回全国学校保健主事研究協議会が、徳川御三家の1つ、「紀州の国」和歌山市で平成20年8月21日・22日の2日間の日程で、全国各地より保健主事、および学校保健関係者が500人集まり開催された。

大会当日の開会行事では、文部科学省、和歌山県連合小学校長会、和歌山県中学校長会、和歌山県高等学校長会、和歌山県医師会、和歌山県歯科医師会、和歌山県薬剤師会の皆様のご臨席を賜り盛大にとり行う事ができた。開会行事の中で、「学校保健功労者表彰」を行い、渡辺達夫先生（前全国学校保健主事会副会長）林正先生（平成17年度近畿学校保健主事研究協議会会長）三谷博之先生（第46回全国学校保健主事研究協議会事務局長）小山浩樹先生（第50回全国学校保健主事研究協議会事務局）坂手勇先生（第50回全国学校保健

主事研究協議会事務局）以上5名の先生方を表彰した。受賞された先生方に敬意を表したい。

引き続いて、

文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課教科調査官 森良一先生による「学校保健の現状と保健主事」と題した基調講話が行われた。平成20年1月17日の中央教育審議会「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について」（答申）の解説をいただき、保健主事として、学校保健を推進するミドルリーダー、学校保健のマネジメントの2つを期待するとまとめていただいた。

続いて株式会社東洋精米機製作所代表取締役社長の雑賀慶二氏による「米と食育」と題して記念講演が行われた。精米機の開発、無洗米の発表、金芽米の発表と苦労話をまじえながら講演をいただいた。

アトラクションでは、和歌山のオバちゃんこと落語家、桂枝曾丸さんが登場し、和歌山弁で、痛快、爽快な落語を披露していただいた。会場は笑いの渦に包まれた。

2日目は3名の先生方による研究発表と課題別研究協議を行った。

各課題別研究協議会では、活発な意見交換が行われ、今後の学校保健活動の課題解決に向けて大きな成果をあげることができた。



開催地：和歌山県和歌山市
会場：ホテル アバローム 紀の国
開催日：平成20年8月21日（木）・22日（金）
基調講話：「学校保健の現状と保健主事」

記念講演：「米と食育」

課題別研究課題：小「喫煙防止教育の取組」

中「心身ともに健康で活力ある生活を実践する生徒の育成
～教科等における食に関する授業を通して～」

高「生徒が主体的に取り組む健康教育」

文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課教科調査官 森 良一

株式会社東洋精米機製作所 社長 雑賀 慶二

和歌山県紀の川市立東貴志小学校 成瀬 憲弘

愛知県豊田市立梅坪台中学校 柴田由美子・坂井 慎一

東京都立九段高等学校 竹下 君枝

第8回 九州地区健康教育研究大会

**生涯にわたって、心豊かにたくましく生きる力を
はぐくむ健康教育の推進**

平成20年8月11・12日の2日間、標記大会が熊本市の崇城大学市民ホール等で開催されました。九州各県から健康教育関係者1,300余名の参加がありました。折しも熊本城築城400年を迎え様々な復元整備が終わり、

その勇姿を多くの皆様にご覧いただくことが出来ました。大会では、1日目の開会行事に続き、シンポジウムと特別講演、2日目には12の分科会が行われました。



〔シンポジウム〕

～テーマ～

「生涯にわたって、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進」

～学校における家庭・地域社会及び関係機関との連携の在り方について考える～

○コーディネーター

熊本大学教育学部 教授

吉田 道雄

○シンポジスト

社団法人熊本県医師会理事

小林 秀正

熊本市立出水南小学校長

緒方 知秋

熊本県南小国町立中原小学校養護教諭

高本 薫

熊本県山江村立山江中学校栄養教諭

木下はるみ

熊本県公立高等学校PTA連合会会長

亀原 了円

〔特別講演〕

演題 「可能性への挑戦」

講師 認定NPO法人スペシャルオリンピックス
日本名誉会長 細川佳代子

特別講演では、細川氏からスペシャルオリンピックス(SO)が始まった経緯及びSOの価値観について話があり、知的障害者が社会の中心となるような社会になって欲しい。そうなれば、日本は必ずいい国になると思うと話され、すばらしい講演でした。

第17回 四国学校保健研究大会・ 第39回 四国養護教諭研究大会・ 第13回 四国保健主事研究大会

生涯にわたり、心身ともに健康でたくましく生きる児童生徒の育成

～心身の健康に関する現代的課題への対応～

8月19日(火)・20日(水)、高知市において、養護教諭・保健主事等関係者約430名の参加を得て、第17回四国学校保健研究大会・第39回四国養護教諭研究大会・第13回四国保健主事研究大会が開催された。



第1日目の全体会では、国立淡路青少年交流の家所長の戸田芳雄先生から「新しい学習指導要領と学校健康教育」と題して記念講演をしていただいた。講演では、子どもたちに必要な健康教育のあり方について分かりやすく話をしていただいた。

シンポジウムでは、「心・からだ・いのちを育む健康教育」をテーマに、学校歯科保健から子どもたちへのアプローチ、生徒の実態調査に基づいた効果的な指導

や支援の方法、生徒による活動を通じて自らに答えを見つけさせるという指導方法、保護者から見た学校・家庭・地域の連携への提言など、それぞれの立場からの発表があり、フロアからの質問も交えて熱心に協議が行われた。

第2日目の校種別実践発表会は、それぞれ3名の先生方から自身の実践に基づいた発表をしていただいた後、質疑を含めて活発な意見交換が行われ、指導助言者からは適切な助言をいただき、大変充実した意義深い大会となった。

【大会概要】

〔第1日目〕

開会式

記念講演

演題 「新しい学習指導要領と学校健康教育」

～健康な子ども、健康な学校づくりのために～

講師 国立淡路青少年交流の家所長 戸田芳雄

(前文部科学省スポーツ・青少年局体育官)

シンポジウム

テーマ 「心・からだ・いのちを育む健康教育」

コーディネーター

高知県歯科医師会常務理事

野村 圭介

シンポジスト

徳島市八万中学校校長

丸興 健一

愛媛県立松山南高等学校養護教諭 村田ゆかり

香川県精神保健福祉センター臨床心理士

黒河内美鈴

前高知県小中学校PTA連合会母親委員長

田井 直子

〔第2日目〕

校種別実践発表会 (小学校部会、中学校部会、高等学校・特別支援学校部会)

第41回 東北学校保健大会 第60回 宮城県学校保健・安全研究大会 第57回 仙台市学校保健研究大会

自主的に健康で安全な生活を実践できる幼児・児童・生徒の育成を目指して

第41回東北学校保健大会(第60回宮城県学校保健・安全研究大会、第57回仙台市学校保健研究大会)は「自主的に健康で安全な生活を実践できる幼児・児童・生徒の育成を目指して」を大会テーマとし、平成20年8月21日(木)・22日(金)の両日、仙台市において



開催され、460人を超える参加者を得て盛大に開催することができました。

1日目の記念講演では宮城教育大学教授の小金澤孝昭先生をお迎えし、『「地域で育てる児童生徒の健康と生活習慣」—はやね・はやおき・あさごはん—いただきます! みやぎの恵み』と題して御講演いただきました。

大会2日目は、「心の健康」「性教育・エイズ教育」「食に関する教育」等の6分科会に分かれ研究協議が実施され、活発な討議及び情報交換が行われました。

大会に参加された多数の方々から「宮城県学校保健会、仙台市教育委員会及び本県教育委員会等の連携の取れた素晴らしい大会でした。」とのお褒めの言葉もいただき、多くの皆様方の御支援により成功裡に大会を終了することができました。

第59回 関東甲信越静学校保健大会

たくましく生きる力と豊かな心をはぐくむ健康教育を目指して

日時：平成20年8月21日(木) 9:30~16:00

会場：長野県県民文化会館

主催：長野県教育委員会、長野市教育委員会、財団法人日本学校保健会 等

後援：文部科学省、関東甲信越静各都県教育委員会、関東甲信越静各都県学校保健会 等

参加：約1,100名

対象：小・中・高・特別支援学校の教職員、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、教育委員会職員、学校保健会関係職員



平成20年8月21日(木)、長野市において第59回関東甲信越静学校保健大会が、約1,100名の参加を得て盛大に開催された。

午前10時30分から長野県県民文化会館において、(財)日本学校保健会をはじめとする来賓各位をお迎えし、開会式が執り行われた。その後、厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課 発達障害対策専門官 日詰正文氏による「発達障害児への理解を深めるために」を演題とする特別講演が行われた。冒頭「発達障害って知るとおもしろい」と思って帰っていただけるような話をしたいときりだされ、その豊富な臨床経験から発達障害児と接する視点をわかりやすく説明された。

12時30分より11都県代表者会議が行われ、平成21年度開催の新潟県からその概要について説明があった。

また、平成22年度は茨城県が開催することを決定した。

午後からは「学校経営と学校保健」、「健康教育」、「性教育・エイズ教育及び薬物乱用防止教育」、「学校歯科保健」、「学校環境衛生と安全教育」の5つのテーマに分かれて班別研究協議会が開催され、各都県からの提案に対し、活発な議論や意見交換ができ、大変有意義な大会となった。

第54回 中国地区学校保健研究協議大会

生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進

平成20年8月21日(木)~22日(金)の両日、鳥根県京江市において標記大会が中国各県から健康教育関係者約550名の参加を得て開催されました。

開会行事に引き続き行われた特別講演では、鳥根県出雲市出身で、豊かな自然に囲まれた隠岐郡知夫村において終末期を迎えたお年寄りを看取る家、NPO法人なごみの里を設立された柴田久美子さんから、「生きることの意味」や「命の尊さ」について語っていただきました。お年寄りが望む自然な死を支えようとする柴田さんの熱い思いにふれ、涙あふれる感動的な講演になりました。



職域部会では、各専門分野において、各県での実践や先進的な事例をもとにした協議や講演等が行われました。

2日目は、7班に分かれての班別研究協議会が開催され、6つの研究協議について各班校種別に2、3校が提案発表した後、活発な研究協議が行われました。

【大会概要】

【1日目】

開会式

特別講演

演題 「抱きしめて送る死の文化」

講師 NPO法人なごみの里代表 柴田久美子

職域部会

・学校薬剤師部会

シンポジウム 「ダニ及びダニアレルゲンの検査測定の実施状況」

・校長・園長部会

講演 演題 「子どもをメディア漬けから守るために」

講師 鳥根の子どもとメディアを考える会代表 伊藤 紀子

・学校保健・安全担当教員部会

講演 演題 「なごみの里・幸齢者から学んだこと」

講師 NPO法人なごみの里代表 柴田久美子

・養護教諭部会

シンポジウム 「時代に即した養護教諭のあり方をもとめて～語り合おう 子どもたちの心とからだを見つめて～」

・中国地区学校医大会 (別日程)

【2日目】

班別研究協議会 (7班)

平成

18年のわが国の食料自給率は供給熱量ベースで39%であり、先進諸国のなかでも際立って低い。食料の大部分を輸入に頼っているにも関わらず、1人1日あたり約660kcal分の食料を廃棄していると推計されている。

アメ

リカにおいても食品廃棄は大きな問題となっている。

食品廃棄は、生産、加工、小売、外食産業、家庭の各現場で生じるが、外食と家庭における廃棄量が最も多く、910億ポンドに達する(1995年)。外食には学校給食も含まれるが、アメリカには、①学校給食における食品廃棄量を減らし、廃棄にかかるコストを削減すること、及び②児童生徒に自分の好きな食品を選ぶ選択権を与えることを目的としたOffer versus Serve (OVS)という条項がある。OVSは1975年に議会で採択された。学校給食では、①肉・卵・豆・魚・チーズ・ヨーグルト・種実類(ピーナツバターを含む)、②穀類、③野菜・果物、④ミルクの4つの食品群から5品目以上提供

海外
ニュース

国立保健医療科学院
生涯保健部主任研究官 須藤 紀子

アメリカの学校給食
におけるOVS

(Offer)することが農務省の基準で定められている。多くの学校では、カフェテリア方式がとられており、児童生徒は5つのくぼみのついたトレイをもって、カウンターを進み、自分で、もしくは給食スタッフに給仕(Serve)してもらう。このとき、OVSによって、提供(Offer)されたメニューのなかで食べたくないものは、高校生は2品目、小中学生は1~2品目(学校によって異なる)までなら給仕(Serve)しなくてもよいことになっている。無作為抽出した全国の公立学校のカフェテリアマネージャーを対象に、会計検査院が実施した質問紙調査によると、約80%がOVSによって食べ残しが減少すると回答していた。

子ども

にも食べ物の選択権を与えられるというのはアメリカらしいところである。日本の給食でも複数のメニューを用意し、子どもに選ばせている学校もあるが、「好き嫌いはなくす」という指導をしている日本の学校給食のあり方は異なるように思われる。

笑顔輝け! 健康ライブラリー

青少年の健康リスク

国立保健医療科学院 林 謙治◎編著

喫煙、飲酒および睡眠障害の全国調査から

**青少年の健全な育成を願う
医療・看護・保健・教育に関わるすべての方、必読!**

- ◆青少年の健康リスク行動
- ◆*喫煙 *飲酒 *薬物 *性行動 *生活習慣について解説
- ◆全国の中学・高校生10万人規模の
〈たばこ・アルコール〉のアンケートをもとにした実態・分析・対応策
- ◆2004年度調査結果表掲載、表・グラフ多数

B5判 150頁
定価3,150円(本体3,000円)
ISBN 978-4-88052-007-0



自由企画・出版 〒185-0021 東京都国分寺市南町3-5-3 伊東第1ビル1F
tel.042-325-8931 fax.042-325-8950
ホームページ <http://www.jiyukikaku.com>

学校保健の最新情報を満載

平成20年度版 学校保健の動向

特集 学校保健法の改正をめぐる 養護教諭、大学関係者、養護教諭養成過程の学生のテキストとしても

- 第1章 健康管理の動向
- 第2章 健康教育の動向
- 第3章 学校環境衛生の動向
- 第4章 国際学校保健に関する二つの領域

資料編

- 学校保健法に関する年表
- マイノリティと教育に関する年表



(財)日本学校保健会/発行
3,000円(税・送料込)

明るいひとみ、はつらつと！

～保健室からみた子どもたちの様子と支援のための取組～

秋田県湯沢市立稲庭小学校

養護教諭 武石 恵理

1.はじめに

ある朝、葉っぱに包んだ「桑の実」が保健室の机の上に置いてありました。学校の前庭で元気に遊ぶ子どもからのプレゼントでした…。こんなすてきな子どもたちが集う湯沢市立稲庭小学校は児童数97名の小さな学校です。「明るいひとみ、はつらつと！」をコンセプトに、職員13名が子どもたちを見守っています。

2.子どもたちの様子と保健室利用の状況

地場産業「稲庭うどん」の伝統と教育に誇りを持つ当地区に育った子どもたちは大変明るく素直ですが、保育園時代から同じ仲間の生活が続き、その状況が子どもたちの人間関係に課題を生み出しているという点は見逃せません。多くの人とかかわる機会に恵まれない現状から他との接し方やつき合い方が学習できないでいる様子が伺えます。

私が本校に勤務して3年、保健室利用状況は平成18年度・19年度とも年間約440件（1人平均18年度4.1回・19年度4.2回・20年度1学期1.8回）でした。不登校・保健室登校等の子どもは今のところいませんが、友達とのかかわり方に不安をいだき、頭痛・腹痛・気分不良等、心因性の症状など、適応困難な様子を呈して保健室に頻回来室する子どもの増加傾向がみられます。

3.児童の心に寄り添う保健室経営・支援を目指して

～メンタルヘルスに重点をおいて～

〈おしゃべりコーナーの設置〉



おしゃべりコーナー

これまで健康相談活動は暫時空き教室を使っていましたが、保健室の一角に専用スペースを設置しました。きっかけは保健室頻回来室傾向が見られ教室に足が向くまで難儀するようになってきた子どもの「保健室利用はなるべく休み時間に…というルールは分かっているけれど、休み時間は人が沢山いて心配なことがあってもお話しできない」という一言でした。休み時間を保健室で過ごし気持ちを

ゆっくりさせたい子、傷病の手当てが必要な子、気持ちを口にするだけで安心する子、どの子も大切です。小さいながら専用の空間を利用し、タイムリーに向き合うことで、子どもの表情や授業に向かう態度に変化があり、心の安定に結びついている手応えを感じています。今年度1学期の保健室利用状況が若干増えているのは、このコーナーが子どもにとって安らぎの場になっているとも考えています。

〈こころポストの設置〉

「心配なことがあったらお手紙ください」と便箋とポストを校内2か所に設置しています。相談を受けたことには、返事を書いたりおしゃべりコーナーで



こころポスト

話をしたりします。一通の相談から大人の知らなかった「いじわる」が発覚し、学級担任と連携していじめの未然防止・心の保健指導につなげることもできました。ここから得る情報は多く、かわりを欲する子どもたちの心や姿をとらえる手立てとして有効性を感じています。

〈広域スクールカウンセラーとの連携〉

本校でも児童の心身の訴えは多岐にわたり、保健室での健康相談活動だけで改善がむずかしいこともあります。そんな時は教育事務所所属の広域カウンセラーと連携します。この制度を利用することで支援の方向性を確認しあうことができ、保護者も学校も安心して支援を要する子と向き合うことができます。

〈健康委員会(児童会)の活動〉

気持ちを伝える言葉・態度の未熟さ、それを補うソーシャルスキルの不足が本校の問題になっています。そこで「気持ちを伝える言葉・態度」による気づきを生まれることを期待して、健康委員会で「言われてうれしい～ふわふわ言葉」「いやな感じがする～ズキズキ言葉」を全校児童にインタビューしました。結果は「嫌な言葉はいっぱいできたけど、いい言葉はあまりないね」というつぶやきが聞かれる現状でした。言葉で気持ちを伝え

あうことを大切にしたいと思い、子どもたちと相談してふわふわ言葉とズキズキ言葉がイメージできるお手玉を作り、ふわふわ言葉が子どもたちの生活に増えていくような活動を企画していきたいと、今、はりきっているところです。



健康委員会の様子

4.おわりにかえて

～走り続ける子どもたちへ保健室から

伝えたいこと～

ある先生が、「人生はマラソンのようなものです。

走り続けなければならない子どもたちが潤いを求めて水分補給する場所、それが学校でいえば保健室」と、おっしゃっていました。走り続け、苦しくなっている子どもには心身に十分な潤いを与え、時には歩いてよいということを伝え、どうすればまた走れるようになるか共に考えたりアドバイスしたりできる給水所・保健室でありたいと思います。快調に走り続けている子どもたちから目を離さず応援するのはもちろんのこと、給水量が少しずつ減るのを喜びとし、ゆっくりでいいから自分の力で状況に合わせて走り続ける力を身につけていけるよう、今できる支援を続けたいと思います。

虎ノ門 (95)

予防接種の移り変わり

予防接種は人にとって様々な感染症を防ぐために、人為的に免疫を付与することにより発病を阻止しようとする手段です。つまり病気を起こさない程度に病原体を弱めた「生ワクチン」、または死滅させた「不活化ワクチン」などを用いて人体に、免疫力を産生させ疾病を防ごうとしてきました。種痘に始まったこれらの感染症予防の方法の多くは成功し、その伝播を防ぎ流行を阻止する役割を果たしてきました。ところが最近の麻疹(はしか)の集団発生をみると成人の発症例が増えてきています。その理由としていくつかあるものの未接種者の罹患以外に免疫力の低下が推定されています。そこで麻疹生ワクチンの再接種が始まりました。風疹予防を含むMRワ

クチンがそれです。再接種により免疫力を増強する手段を〈ブースター効果〉とありますがそのためには免疫力がどの程度あるか調べる必要があります。実際には血液(血清抗体)を利用した方法が一般的です。地域によっては行政による年齢層別の免疫力の調査もが始まっているようです。その結果が今後の予防接種に反映されるでしょう。いまは定められた予防接種は副反応を含め正しい知識と理解の下で実施されることが望まれます。その他すでに肺炎球菌ワクチンやHibワクチンが実用に供されていることや、BCG接種に改変が見られたことなど、更には新インフルエンザワクチンの実現も間近に迫ること、直近の水痘ワクチンによる帯状疱疹の予防など話題に事欠かない毎日となっています。

(編集委員長 内藤 昭三)

編 集 後 記

今号の編集作業をしている最中にも、インフルエンザで学級閉鎖があったというニュースが飛び込んできました。前シーズンは流行のピーク時が冬休みに当たったせいか、小さい規模で収まりましたが、今シーズンはどうなるのでしょうか。

流行性の感染症の場合、学校は、保健指導を通じての児童生徒、保護者に向けて常に情報発信することにより、流行を少しでも抑制できる地域拠点の役割を果たせるところです。ところが、学校医や地域の保健所は感染症に対しては受身であるところが大きいという

のが実情でした。そこで、(財)日本学校保健会では、学校医を含めた地域医療と学校、それに教育委員会をつないだITシステムの構築で感染症対策に役立ち、また、入力という手間以上に学校現場で役立てられるものとして「学校欠席者情報収集システム」の普及をすすめてまいります。

例年のインフルエンザの流行はもとより、新型インフルエンザが大変懸念されている時、その予防措置を講じる一つの手段としてこのシステムにご協力をいただける地域が増えることを願っています。(内藤昭三)



うがいしましょ!



NEW

新しい仲間が登場!

ほんのリフルーティ〜



医薬品
イソジン
うがい薬

イソジン®うがい薬

効能 口腔内及びのどの殺菌・
効果 消毒・洗浄、口臭の除去

isodine.jp

この医薬品の「使用上の注意」をよく読んで正しく使用して下さい。

【商品の問い合わせ先】

くすり相談室: TEL.03-3273-3474
受付時間: 9時から17時まで(土、日、祝日を除く)

製造販売元 明治製菓株式会社 技術開発 ムンディファーマB.V.

Otsuka Academy 後期開催校募集

■主催: 大塚製薬株式会社
■後援: (財)日本学校保健会 (財)日本体育協会

公開スクールセミナー

2008年前期は、スポーツ活動中の水分補給をテーマに全国327校、約7万人の方々にご参加いただき、大変ご好評をいただきました。後期は、「**しっかり朝食!栄養バランスについて考えよう**」と題し、引き続き小学校高学年・中学生を対象にした出前講座の開催校を募集いたします。詳しくは下記の事務局までお問い合わせ下さい。(申込み受付09年1月末。実施は2月末までです)



お問合せ先

大塚製薬 アカデミー事務局

〒102-0075 東京都千代田区三番町24 林三番町ビル4F

TEL:03-5275-6838

※お問合せは、土日祝日を除くAM10:00～PM6:00

(財)日本学校保健会推薦

抽選で10校様へ
ポカリスエット200ml
ペットボトル1ケースを
無料進呈します。



学校名、住所、TEL、ご担当者名、ポカリスエットについてのご意見や活用方法をご記入の上、左記の大塚製薬アカデミー事務局内「ポカリスエットプレゼント係」宛てまでハガキにてご応募ください。
※当選発表は発送をもって代えさせていただきます。
【応募締切】平成20年12月末日まで

Otsuka



キシリトール ネオ、宇宙へ。

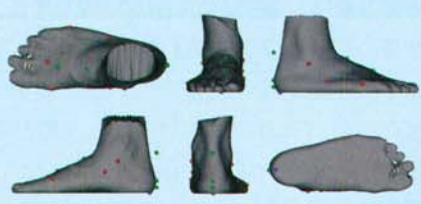
ロッテ・キシリトール ネオは、国際宇宙ステーション日本実験棟「きぼう」に持ち込まれました。

むし歯のない社会へ。
XYLITOL
http://www.lotte.co.jp



「児童生徒の足計測」が終了しました。

(財)日本学校保健会では、今後の保健指導等に役立てるため「児童生徒の足に関する実態調査」を実施しています。日本教育シューズ協議会は、足の計測や調査に関わる業務を担当し、これまでに約10,000人の計測が終了いたしました。今後、「足の健康に関する調査研究委員会」で研究分析を加え、報告書が作成される予定です。計測についてのご説明や、実施要項・足の資料等をご希望の方は、JES東京事務局までお問い合わせ下さい。





日本教育シューズ協議会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-3-4
TEL.03-3862-8684 FAX.03-3862-8632
Eメール: keisoku@jes.gr.jp